

みなと銀行共催「FBC上海2014 (日中ものづくり商談会)」

みなと銀行上海駐在員事務所

所長 河村 真二



【プロフィール】

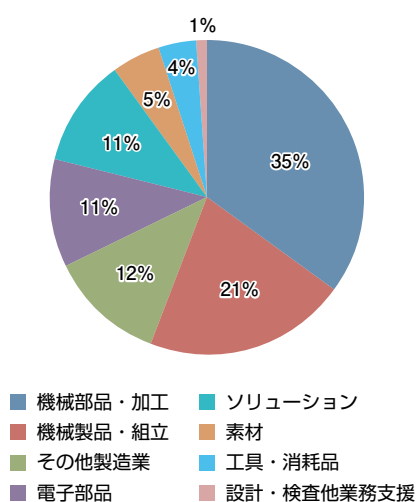
1990年京都外国語大学卒業。みなと銀行入行。岩屋支店支店長を経て、12年8月より、上海駐在員事務所所長(事務所は07年4月に開所)。中国進出支援、既に進出しているお取引先への情報発信、現地ビジネスマッチング、商談会・セミナーの開催など多岐に亘りお取引先企業をサポート。

商談会の特徴

2014年9月3日、4日の2日間、みなと銀行を含む全国の地方銀行や自治体など40団体が共催する中国最大規模の製造業特化型商談会「FBC上海2014(日中ものづくり商談会)」が上海世貿商城(上海マート)で開催されました。

2005年から開催されているこの商談会は、日本の製造企業が材料や部品の現地調達、自社製品の販路拡大のために調達・販売品を展示し、中国ローカル企業や在中国日系企業と商談する場です。出展者同士や来場予定者が直接情報交換し、事前にマッチングが行われるため、中国国内で現地調達や販路拡大を目指す企業にとっては、効率よくスピーディに商談できることが大きな特徴です。17回目となる今回は、部材調達や販路拡大を目指す製造業者や日系企業の進出を支援・サポートするコンサルティング会社など550社(593ブース)が出展しました(図1)。

(図1) 出展企業 550社の業種内訳



会場は、「加工」、「原材料・消耗品」、「生産設備」、

「電気・電子部品」、「総合」、「ソリューション」と大きく6つのエリアに分かれるレイアウトでした。最も出展が多かったのは加工エリアで全体の約3割、次に生産設備エリアで約2割とこの2つのエリアで全体の約半数を占めていました。また、出展企業の業種割合は機械(部品・加工)35%、機械(製品・組立)21%と機械関連で半数以上が占められていました。

弊行は2008年から共催しており今回で7回目となります。今回初めて出展された5社を含め、12社のお取引先が出展されました。これまで累計48社のお取引先に出展いただいております。中国ビジネスをサポートする重要なイベントの一つとなっています。

出展企業インタビュー

今回で6回目の出展となる、お取引先にお話をお伺いしました。「今回は来場者が訪問する出展企業のことを事前によく調べていて、部材調達なのか販路拡大なのか目的もはっきりしていたので、弊社のブースに来られた業者の方との商談もスムーズに進めることができた。今年は来場される方の質が良かった。」とのお声をいただきました。また、今回は今までとは少し違い、見積りもりの依頼や日本での面談の約束件数も昨年より増え、良い成果を得られたとのことでした。

このお取引先は、2014年2月、上海自由貿易区に現地法人を設立されてから初めての出展でもあり、非常に手応えを感じられたそうです。

その他に、昨年も出展された企業では、「前回
は名刺交換だけで終わった企業と今年も会場で会
う事ができ、一年後の商談に結び付いた。」との
エピソードや、また、2日間で200枚以上名刺
交換をされ、早速、成約に結び付きそうな案件に
出会えた出展企業などのお話しをお伺いするこ
とができました。

弊行を通して出展いただいた12社の商談件数は
274件、後日の面談の約束等64件、この他名刺
交換・会社説明等1162件となりました。具体
的な見積もりや設計依頼があるなど効果的な商談
ができたこと、各社とも今回得られた情報をもとに
ビジネスにつなげていくとのことでした。

主催者インタビュ―

今回、商談会を主催しているファクトリーネッ
トワークチャイナにお話を聞きました。「日
系企業の製造拠点のASEANシフトや中国国内
の事業規模の伸び悩みなどの話題が多いですが、
中国ローカル企業も技術力をつけている昨今、も
のづくり商談会の中国での知名度も向上し、今回
の商談会では来場社数、来場人数は昨年より増加
しており、依然根強い中国市場の魅力と存在感は
変わらないことを物語っているといます。弊社
としても、引き続きものづくり企業様を積極的に
支援していくためのツールの提供を行っていきま
い。」とのことでした。

最後に

中国では毎年、給与上昇率が約10%となってお
り、安い労働コストのみを利用した「ものづくり」

は難しい時代になりました。安価な労働力だけを
求める企業はベトナムなどにシフトしています。
また、為替の「元高円安」傾向もあり単に日本へ
輸出するメリットは薄らいできています。今まで
は中国で部品を製造し、日本本社へ供給していた
企業も中国国内での販売に切り替えようとする動
きがあります。資金力のある中国企業は日本の部
品や設備を積極的に導入しています。例えば、中
国のスマートフォン出荷台数が伸びている要因の
一つに日本の部品や技術が入っ
ていることがあげられています。

今年の「日中ものづくり商談
会」では、昨年と比べ出展企業
数は53社減少したものの、来場
社数・来場人数は昨年より約
200社・300人それぞれ増
加しました(表1)。これは、
日系企業のASEANシフトの
一端が伺える一方、日系企業の
持つ技術力や製品が中国企業に
とって極めて魅力的であること
を数字が物語っているようにも
思います。

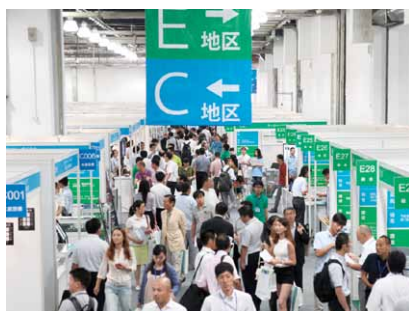
年々、中国企業は力をつけて
きており、「世界の工場」から「世
界の市場」に移りつつあり、こ
の市場で日本企業は中国企業を
はじめ世界グローバル企業と競
合します。これからの日系企業
は付加価値の高い技術力を持つ
た「ものづくり」を求められる

一方、体力のある中国企業は日本の高度な技術・
設備をまだまだ欲しがっています。既に、技術力
のある当地の日系企業の中には日本本社の規模を
上回っている企業もあります。昨今、日中関係は
厳しい状況が続いていますが、人口減少の心配を
しなければならぬ日本からみれば、13億人の巨
大な市場を無視することはできないのではないかと
日本に留まる方にリスクがあるのではないかと思
います。

(表1) 出展企業数と来場者の推移

当行共催	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目 (今回)
開催年月	2008年 12月	2009年 12月	2010年 9月	2011年 9月	2012年 9月	2013年 9月	2014年 9月
出展企業者数	170	157	334	469	582	603	550
当行取引先 出展企業社数	13	10	12	19	13	14	12
商談件数(※)	-	-	8,500	15,000	17,500	18,000	16,000
来場社数(※)	1,300	1,500	3,200	4,800	5,700	5,100	5,300
来場人数(※)	2,200	2,400	5,300	8,600	10,360	8,500	8,800

主催者公表数を基にみなと銀行作成。(※)は概数



商談会場の様子



開幕式の様子 (各共催者の代表者)